

若手の法人参加とGAPの導入

【様式3】 ～（農）城九郎の設立と運営支援～

西部農林振興センター益田事務所農業普及部

1 課題の背景とねらい

益田市美濃地町の中山間地に位置する城九郎地区は、農家戸数が減少し、耕作放棄地が増加している上、入作者が多く農地集積が難しいという課題を抱えていました。そのような状況の中、平成26年の米価の大幅下落等を背景として、城九郎上集落で平成27年3月に「城九郎アグリランド営農組合」が立ち上がり、水田農業経営を通して地域の農地維持に取り組んできました。

しかし、少人数で立ち上げた任意組合では、将来にわたる営農活動の継続に不安がありました。

そこで、地域の農業・農地を持続的に守っていくため、城九郎地区における集落営農組織の後継者育成を図るとともに、農業生産工程管理（GAP）手法導入による組織運営体制の強化を普及活動の目的としました。



2 活動の内容

（1）集落ビジョンづくり支援

「城九郎の未来を考える若者の集い」等を通して、地域に暮らす若手世代（30～40歳代）と「城九郎の農業、農地をどのようにしていきたいか」等の意見交換を重ねました。

普及部ではその中で、現状の課題の洗い出しや今後の集落ビジョンを描くための支援を行いました。また、若手世代の水稻栽培技術の習得や、先進地視察等を通して法人化・組織運営体制構築のための検討を一緒になって取り組みました。

【営農組合と若手後継者で話し合い】

- 地域の農業・農地をどう守るか？
- どういう農業経営を行うか？
- 今ある農業機械をどう集約するか？
- 継続的な組織活動のための後継者育成

（上城九郎集会所にて）

（2）GAP手法の導入支援

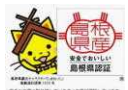
城九郎の将来の担い手である若手世代が「農業のノウハウ」や「基本ルール」を習得しやすくすること、また、地域の皆が食べたくなるような米を自ら作ることができるように、農政部と連携してGAPの手法を導入し、「安全で美味しい島根の県産品認証取得制度（通称：美味しまね認証）」を取得できるよう支援しました。

「GAP」に関する基礎知識、「美味しまね」の4つの視点、農業の見える化、リスク管理等を説明し、情報を共有するとともに、チェックリストの整理（書類整理やPR方法等）や作業現場の効率的かつ安全な活用方法などを一緒になって考えました。



農業の見える化

リスク管理



3 活動の成果

(1) 集落営農組織の法人化と組織理念の統一

地域の若手との意見交換等を通して組織の意識と理念が統一され、若手5名を加えた11名で「(農)城九郎」を設立することができました。若手世代からも役員を登用すると共に、少人数ながら部会を設立して若手世代の育成と経営の効率化を図ることができました。

組織理念

「地域の将来は自分たちで守っていこう！
自分の子供たちへ更に美しい環境で引き継いでいこう！」

【農地を守っていくしくみづくり】経営改善・耕作放棄地対策・農地整備
【少人数でフットワーク軽い体制】部会創設・協力連携体制・後継者育成

★ 組織体制図及び組合員構成



後継者育成を見据えた組織体制・少人数ならではの連携体制

(2) 集落ビジョンの作成と実践

行動計画	H29		H30		H31	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
1. 運営体制の構築						
①組織の法人化	◎					
②若手オベ・事務局の育成	●	→	→	→	→	→
③周辺法人との連携		●	→	→	→	→
2. 農地を守るしくみづくり						
①農用地利用改善組合の設立	◎					
②作業受託体制の構築	●	→	●	→	→	→
③多面的機能支払への取組	●	→	●	→	→	→
④集落放牧	●	→	●	→	→	→
3. 農産物の収益向上						
①エコ農産物推奨取得		●	●		●	
②美味しまね認証取得		●	→	→	→	→
③アスパラガスの産地化					●	→



(設立総会を祝う構成員と関係者)

(3) GAPの導入と実践

平成29年9月に(農)城九郎は「美味しまね認証」を「米」で取得しました。(農)城九郎は設立して1年目ですが、GAPを導入することによって法人の内部整理を行うことができ、後継者への世代交代や引継ぎが行いやすくなりました。

また、城九郎のお米を自信をもって皆さんに食べてもらうことができるようになり、持続的な法人運営が可能となりました。



4 残された課題と今後の展開

(1) 当面の課題

- ① 組織運営体制の確立
- ② 若手構成員の育成
- ③ 農産物の高付加価値化
- ④ 集落放牧の継続

★ 美味の活用
認証の活用
しまねの活用

(2) 将来へ向けて

- ① 農地を守るしくみづくり
- ② 後継者の継続的確保と世代交代
- ③ 周辺地域(組織)との広域的連携
- ④ 高収益作物導入の検討